

しもまち キラリ

株式会社 モア・ザン・グリーン

内閣府など2つの全国表彰を受賞した、安岡地区の複合施設「やすらガーデン」。整備と運営に携わった中村圭さんが描く、まちづくりの未来とは。

人がつながる場所を未来へ

建物だけではまちは動かない

緑の芝生広場を子どもたちが駆け回り、図書館を訪れた人がベンチでくつろぐ。そんな光景が日常になった安岡地区の複合施設「やすらガーデン」が、内閣府の「第2回PPP/PFI事業優良事例表彰」で特別賞を、都市みらい推進機構の「第23回土地活用モデル大賞」で審査委員長賞を受賞しました。

施設の維持管理や運営を担う株式会社モア・ザン・グリーンの代表取締役、中村圭さんは、地域の声に向き合ってつくった場所が客観的にも評価されたことを喜びます。「建物をつくるだけでは、まちは動かないし、息をしない」。目指したのは、いろんな人が混ざり合う、日常の延長線上にある「まちの共有地」でした。



▲「素直にうれしかった」と、東京での表彰式を振り返る中村さん。

かつてこの場所には、70年近く市民に親しまれた園芸センターがありました。施設のエントランス付近の空間は、当時の温室をイメージした設計です。

「園芸センター時代の歴史を、どこかで引き継ぎたかったんです」。シンボルの木も、園芸センターにあったものを植え戻したといいます。

地域の人々と対話を重ねて

整備を担ったのは、市内に本社や支店を置く企業が中心の地元チームです。地元に根差す企業だからこそ、つくった後も責任を持って地域と向き合い続けたい。そんな思いを胸に、計画段階から地域の人々と対話を重ね、この場所のあり方を考えてきました。

しかし、工事の過程では、既存の緑の変化や工事に伴う影響への心配、完成後の周辺





▶3月15日に開催された「ART LIFE UNIV」。普段はなかなか出会えないクリエイターやお店が集まり、来場者との交流が生まれた。



◀木造建築ならではの温かみが魅力のレストラン「森と灯」が7月にオープン。地産地消をテーマに、地元の食材を生かした料理が楽しめる。



▶10月31日～11月1日に「GREEN & HALLOWEEN」をテーマに開催された秋まつり。シャボン玉遊びやビンゴ大会、植物のワークショップなど、子どもから大人まで楽しめる多彩な催しでにぎわった。

環境に対する不安の声が寄せられることもありました。幹線道路から一本入った立地のため、飲食店の誘致も難航。そこで自社グループでリスクを背負い、カフェとレストランを開きました。完成後も中村さんは「地域の皆さまの理解と協力に支えられた」と感謝を込めて振り返ります。

いつか「帰りたい」と思える場所に

中村さん自身も、やすらガーデンによく足を運びます。朝夕に散歩する高齢者や犬を連れた親子とすれ違えば自然とあいさつが生まれ、植物の名前を尋ねられることも。立場に関係なく、会話のきっかけが生まれる場所になっていると感じています。

何より大切に考えているのは、ここで過ごす子どもたちの未来です。進学などで一度は下関を離れても、ここでの経験が心に残り、いつか「下関に帰ってもいいな」と思ってもらえる場所であってほしいと話します。

やすらガーデンは、中村さんにとってまだ完成された場所ではありません。「地域の皆さんと共に育ち、世代を超えて受け継がれる場所にしたい」。思い描くのは、10年後、20年後も地域に愛され続けるやすらガーデンの姿です。

Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関の魅力が伝わる写真をご紹介♡

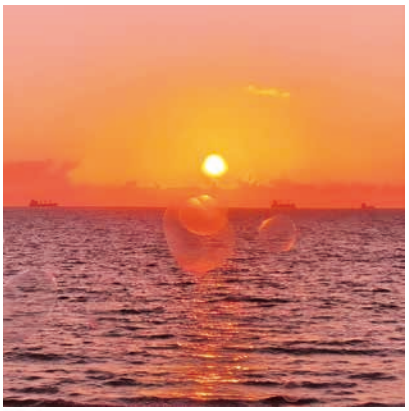
Can you guess Where This is ?



@hideakit016さん



@kokemusubiiさん



@rafii.38_be.myself_さん

（上から）下関漁港閘門、白滝山、綾羅木海岸

Editor's note 編集後記

◆座談会は話が弾み、収録は２時間超え。お開きのはずが、外に出てからも30分以上、話が尽きませんでした。そんな皆さんの話を誌面にまとめるのは一苦労。面白くて削れず、急きょ半ページ増やしてしまいました。それでも、まだまだ紹介し足りません。続きが気になる方は、ぜひまちのイベントへ。登場した皆さんに会えるかもしれませんよ。取材へのご協力、ありがとうございました。(い)